

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

「男性育休体験」について

第1報（回答期間 2022年6月～7月）

日本整形外科学会 男女共同参画委員会

期間：2022年6月～

対象：①「男性育休」を取得した経験がある
男性会員

②「男性育休」を取得した経験がある
夫・パートナーを持つ**女性会員**

育休制度を利用した場合以外に、年次有給休暇等を代用して育休の代わりに利用した場合も本調査の対象とする

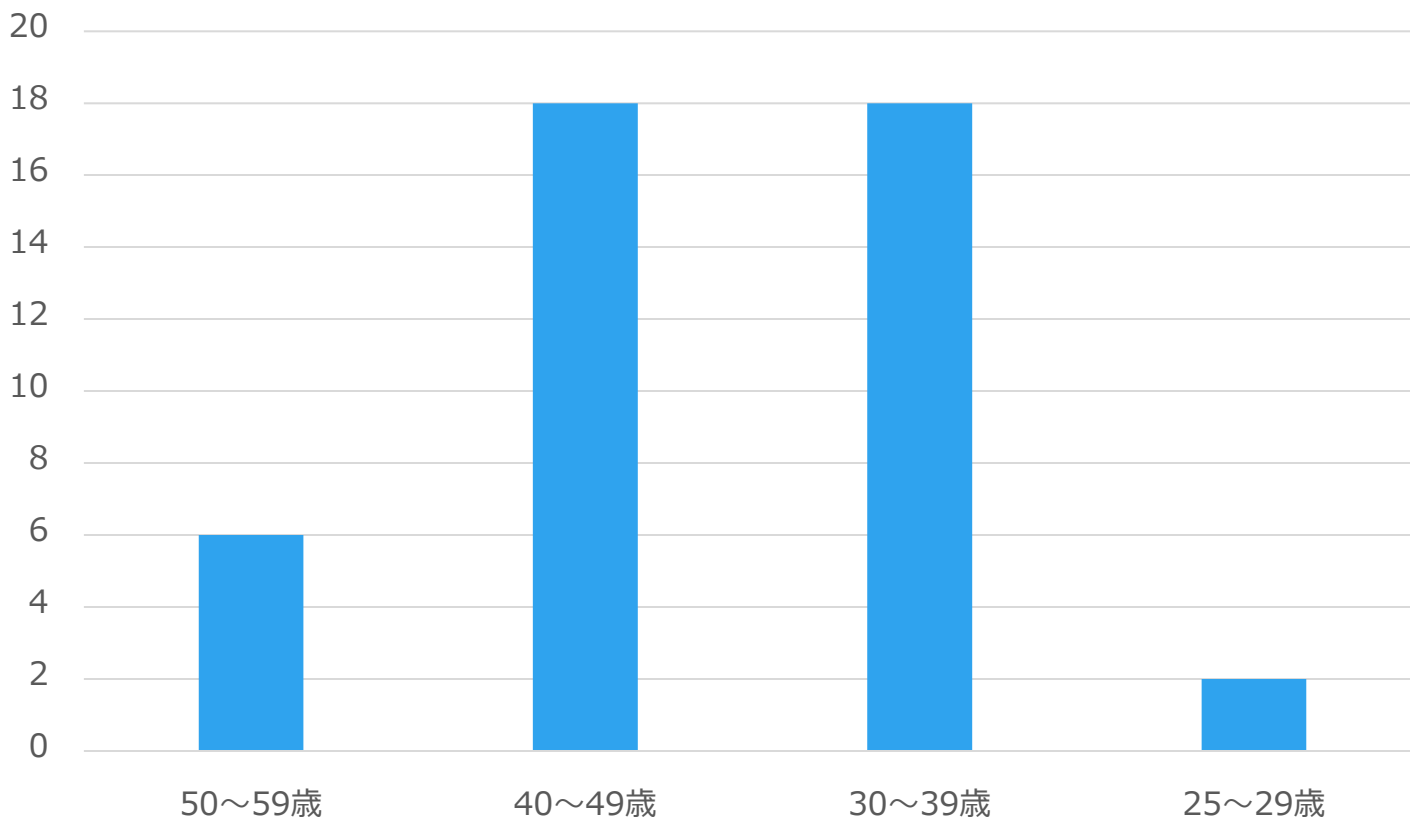
今回は【第1報】として、7月下旬までに回答された44名の男性会員の回答内容について報告する

男性会員Ver. 回答フォームURL

<https://forms.gle/Wr8dW6gZq5t6X2f39>

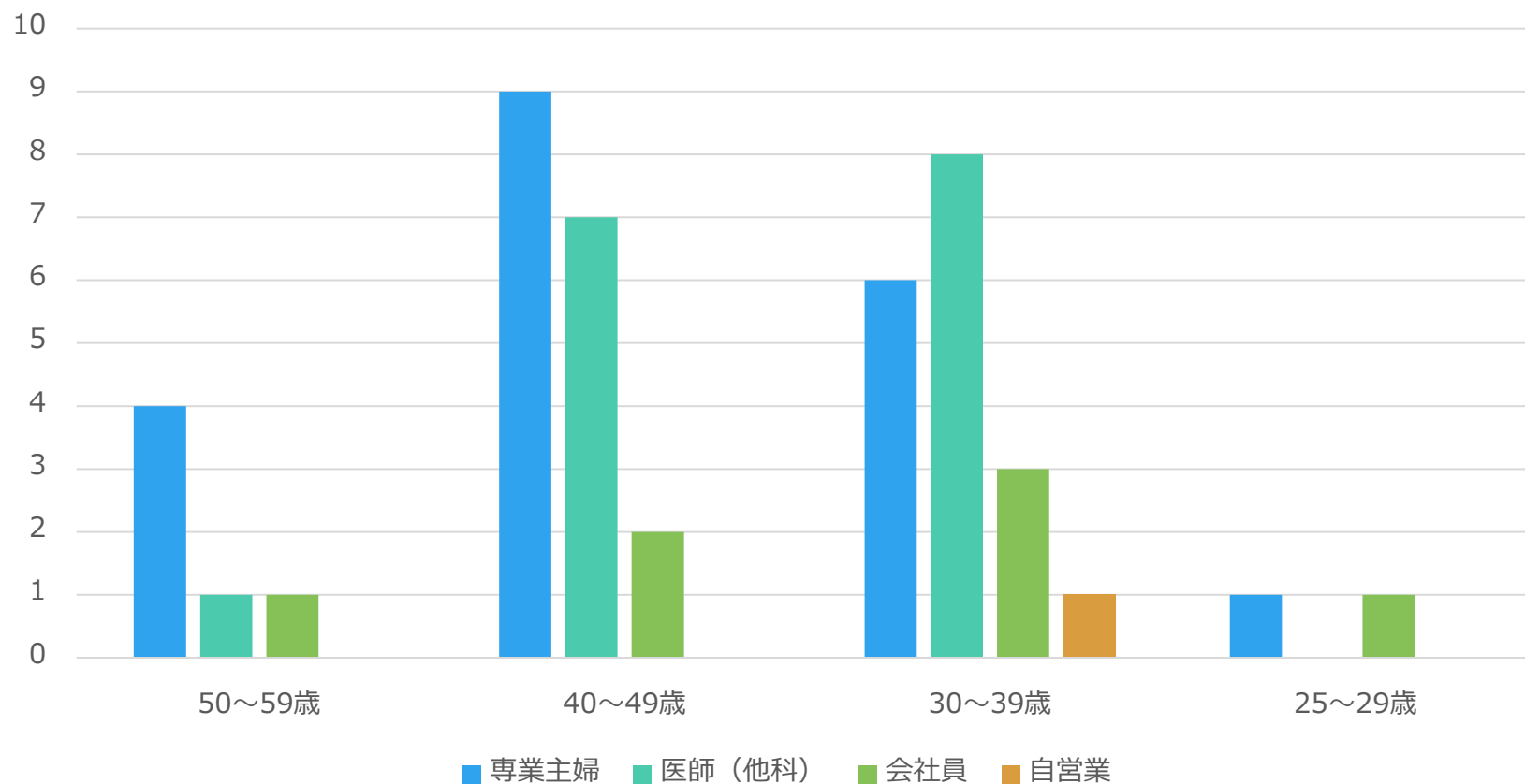
Q1. 現在のあなたの年齢を下記から
1つ選択してください。

図1 回答者の年齢



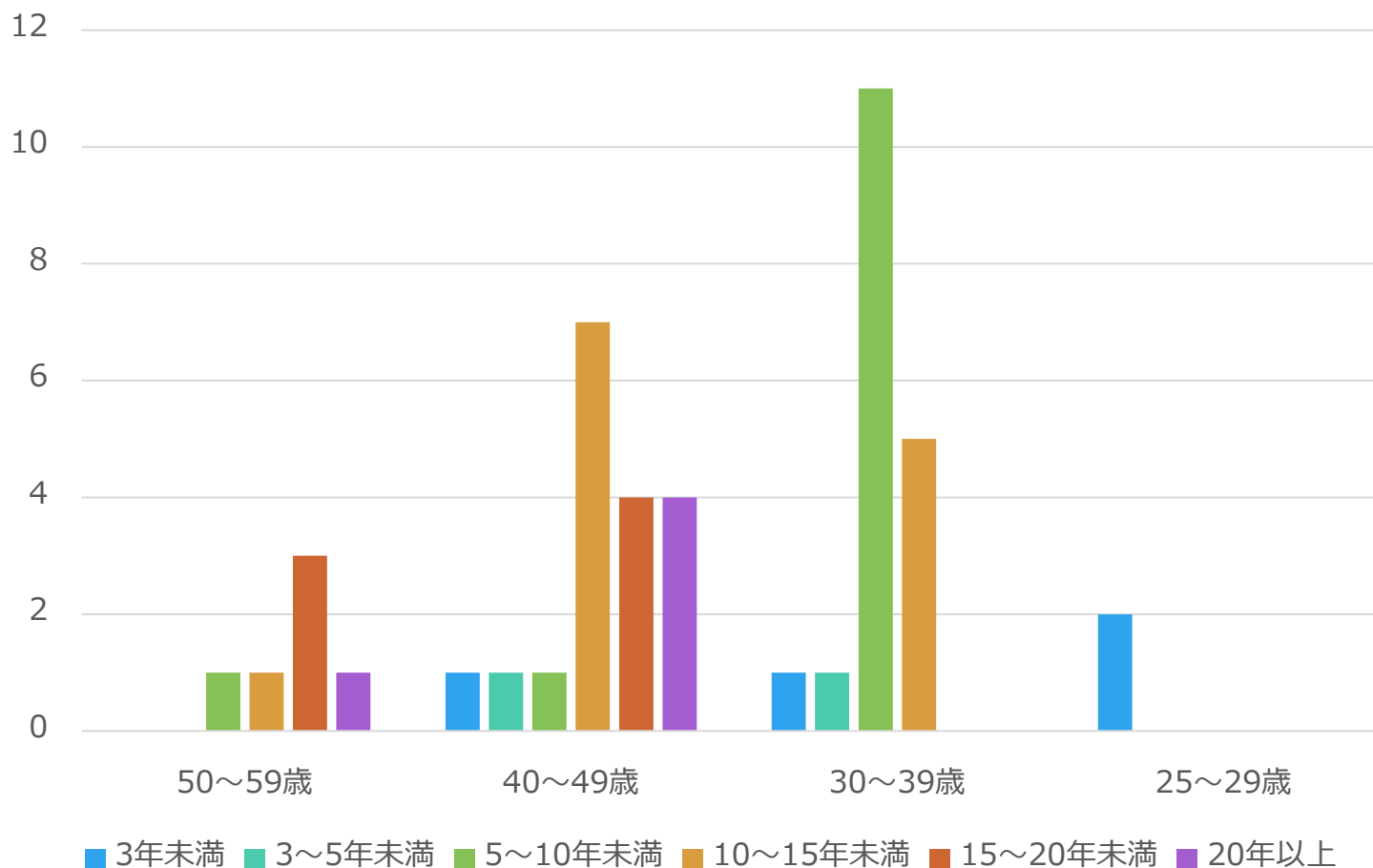
Q2. 出産した妻・パートナーの職業を
下記から1つ選択してください。

図2 出産した妻・パートナーの職業



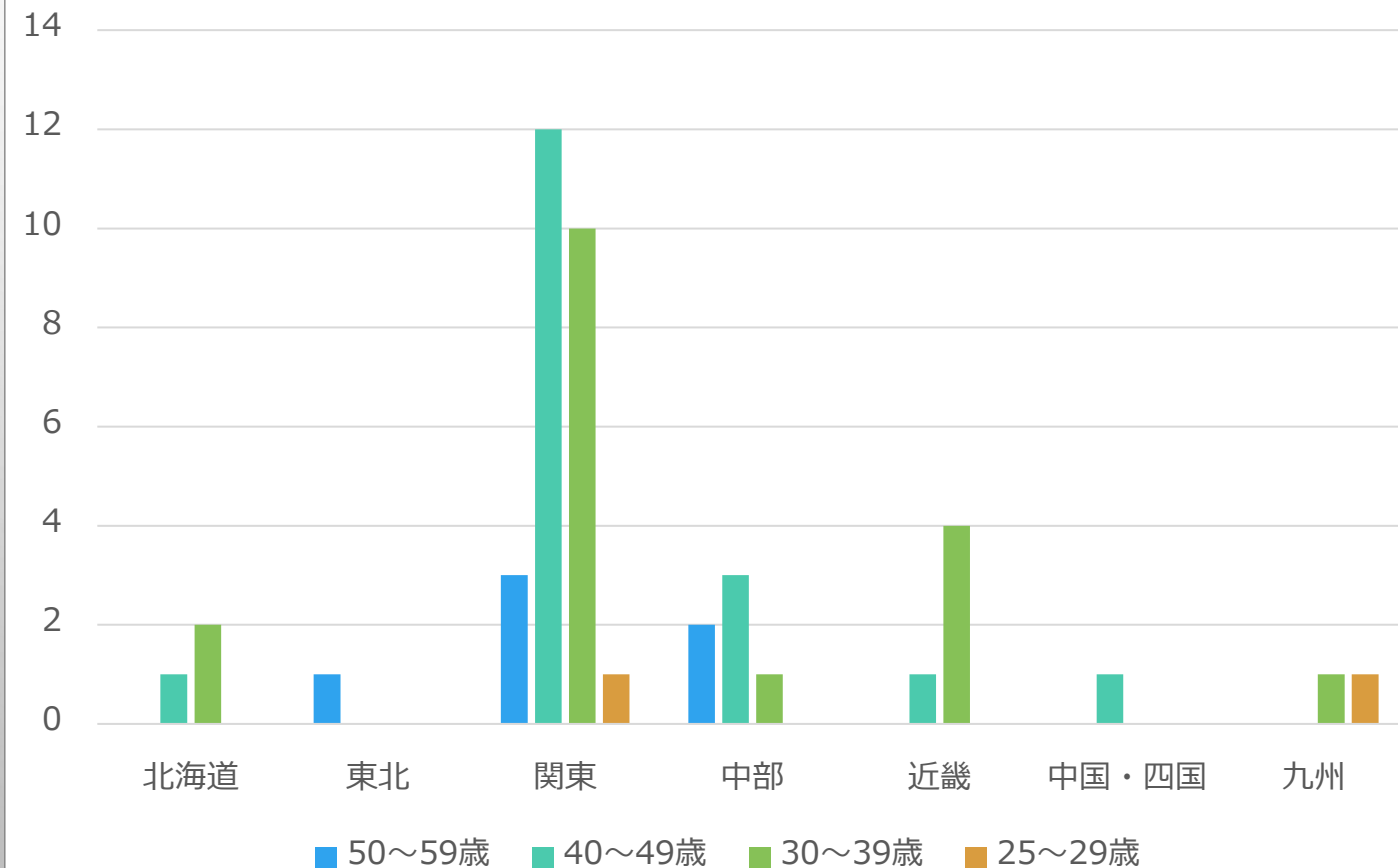
Q3. 男性育休取得時のあなたの整形外科医師としての経験年数を下記から1つ選択してください。

図3 男性育休取得時の回答者の整形外科医師としての経験年数

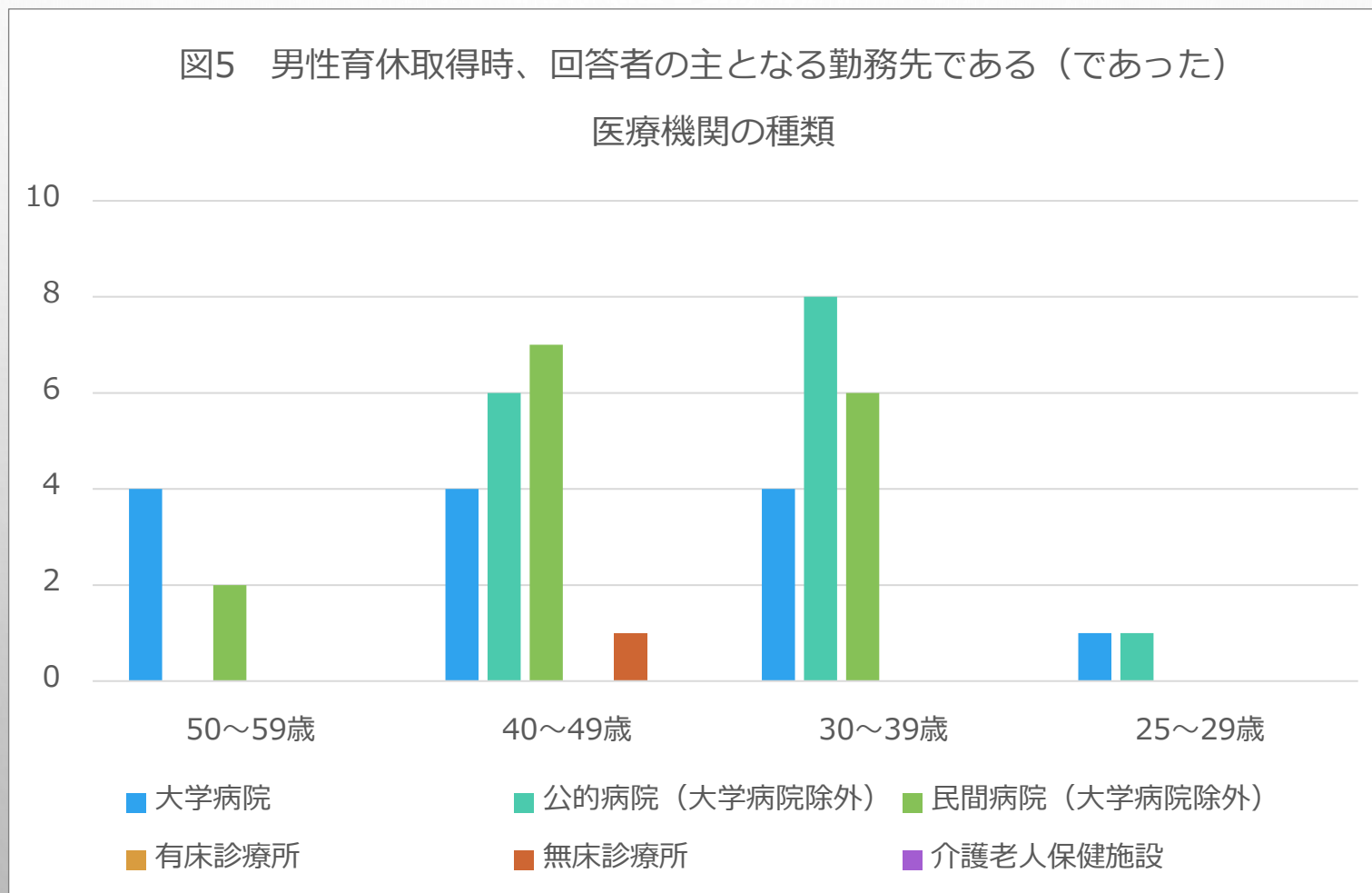


Q4. 男性育休取得時のあなたの所属地区を下記から1つ選択してください。

図4 男性育休取得時の回答者の所属地区

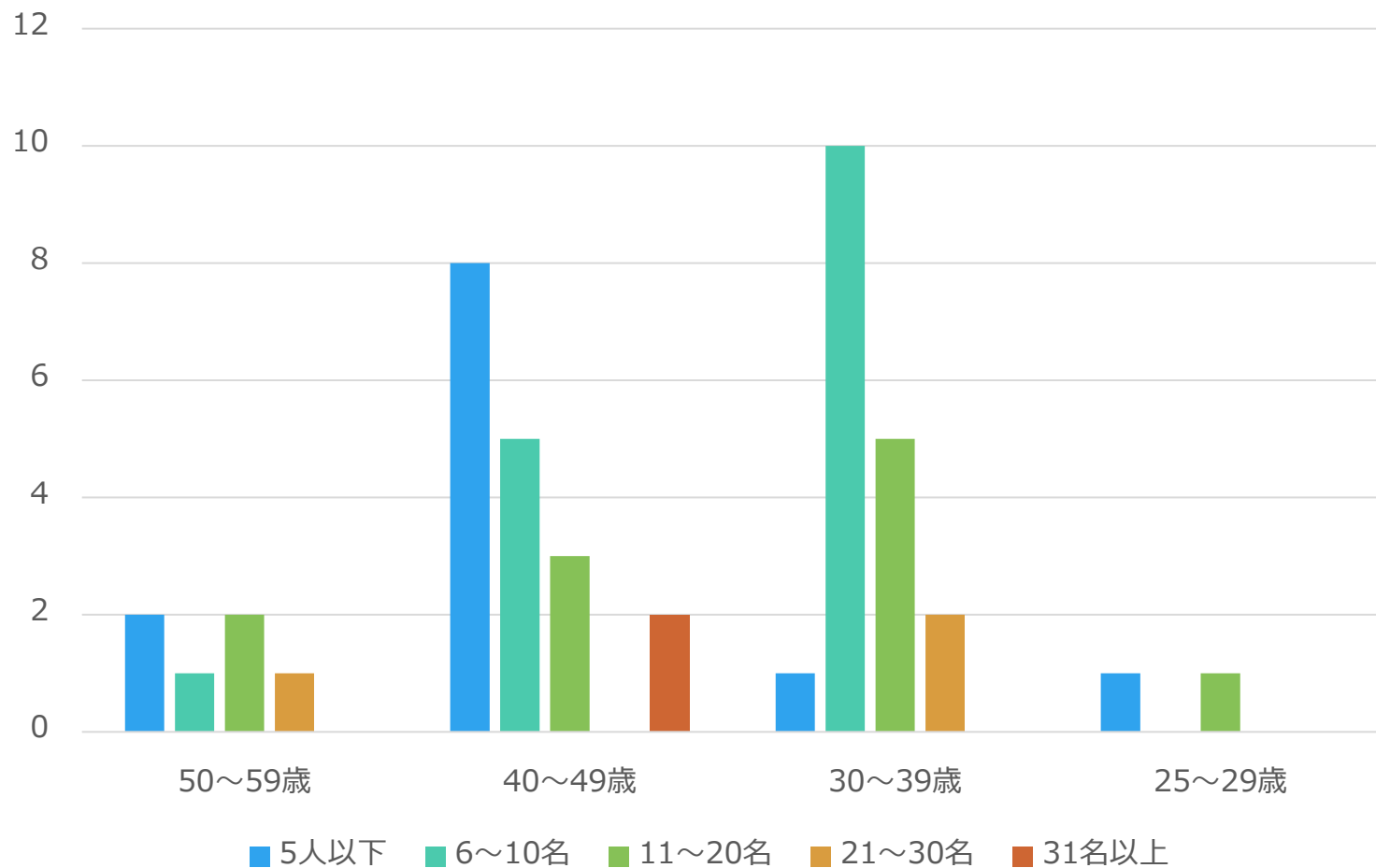


Q5. 男性育休取得時、あなたが主に勤務している（していた）医療機関の種類を下記から1つ選択してください。

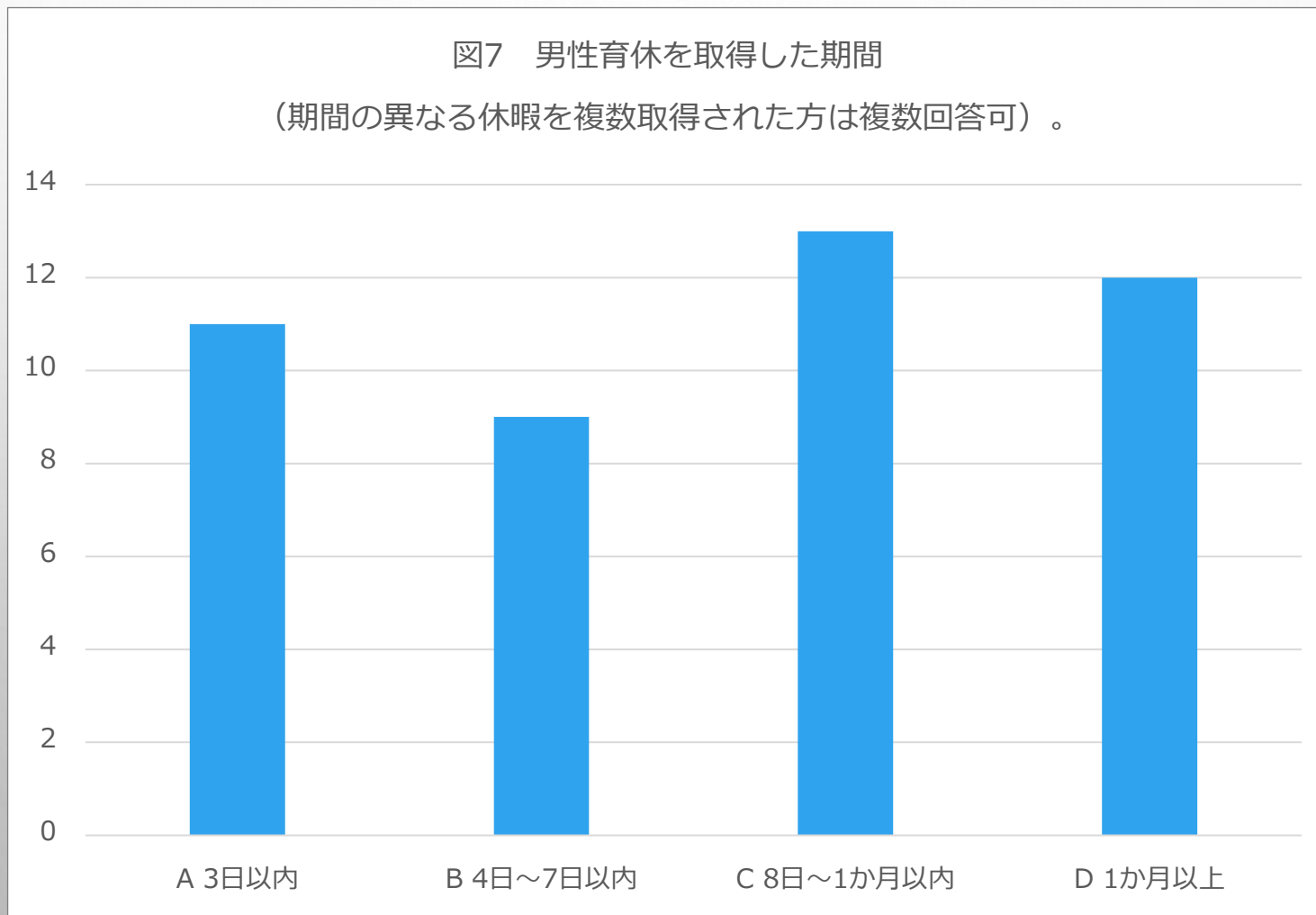


Q6. Q5の医療機関の常勤（週4日以上） 整形外科医師数は何名ですか？

図6 主となる医療機関の常勤（週4日以上）整形外科医師数

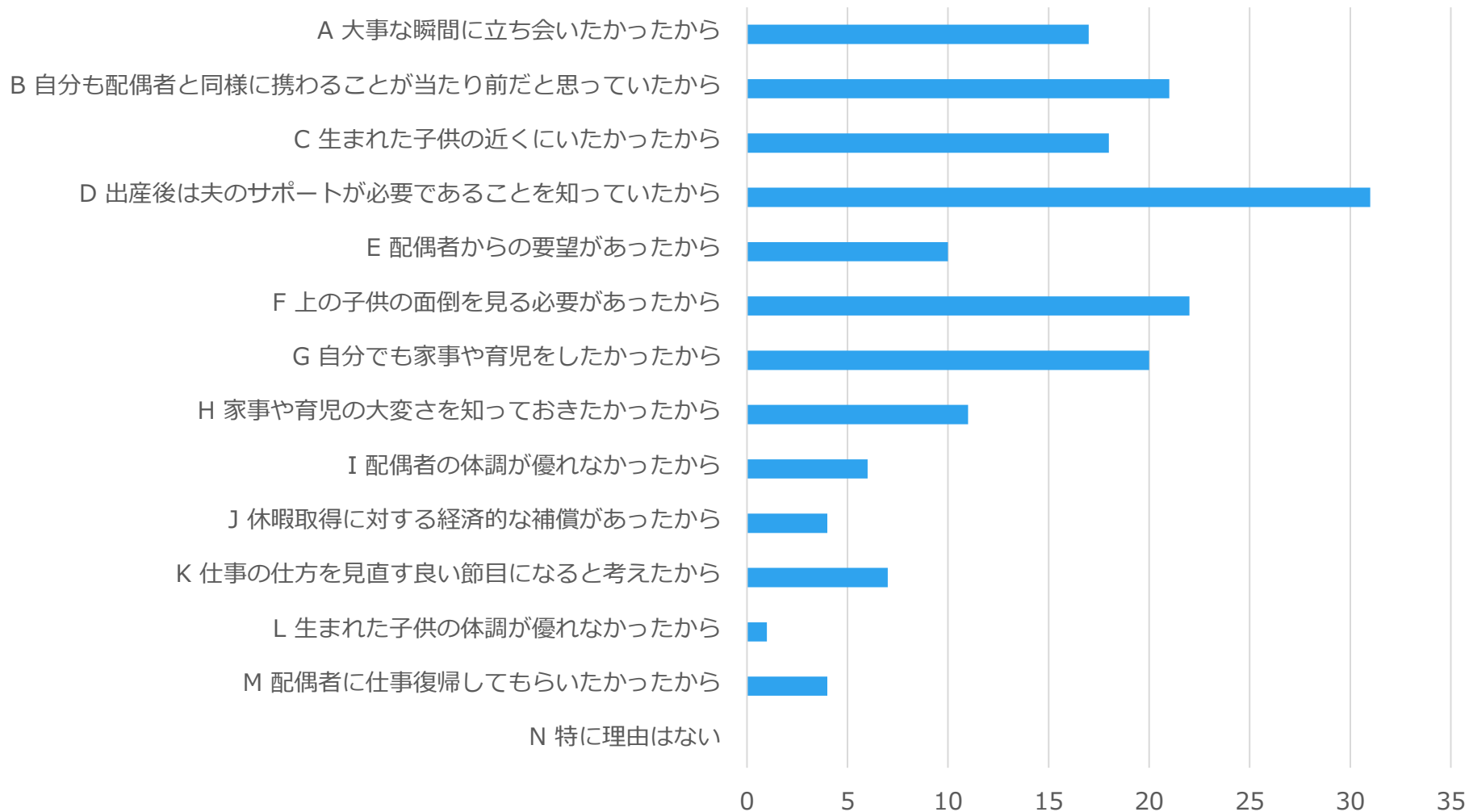


Q7. 男性育休を取得した期間について
お答えください（期間の異なる休暇を
複数取得された方は複数回答可）。



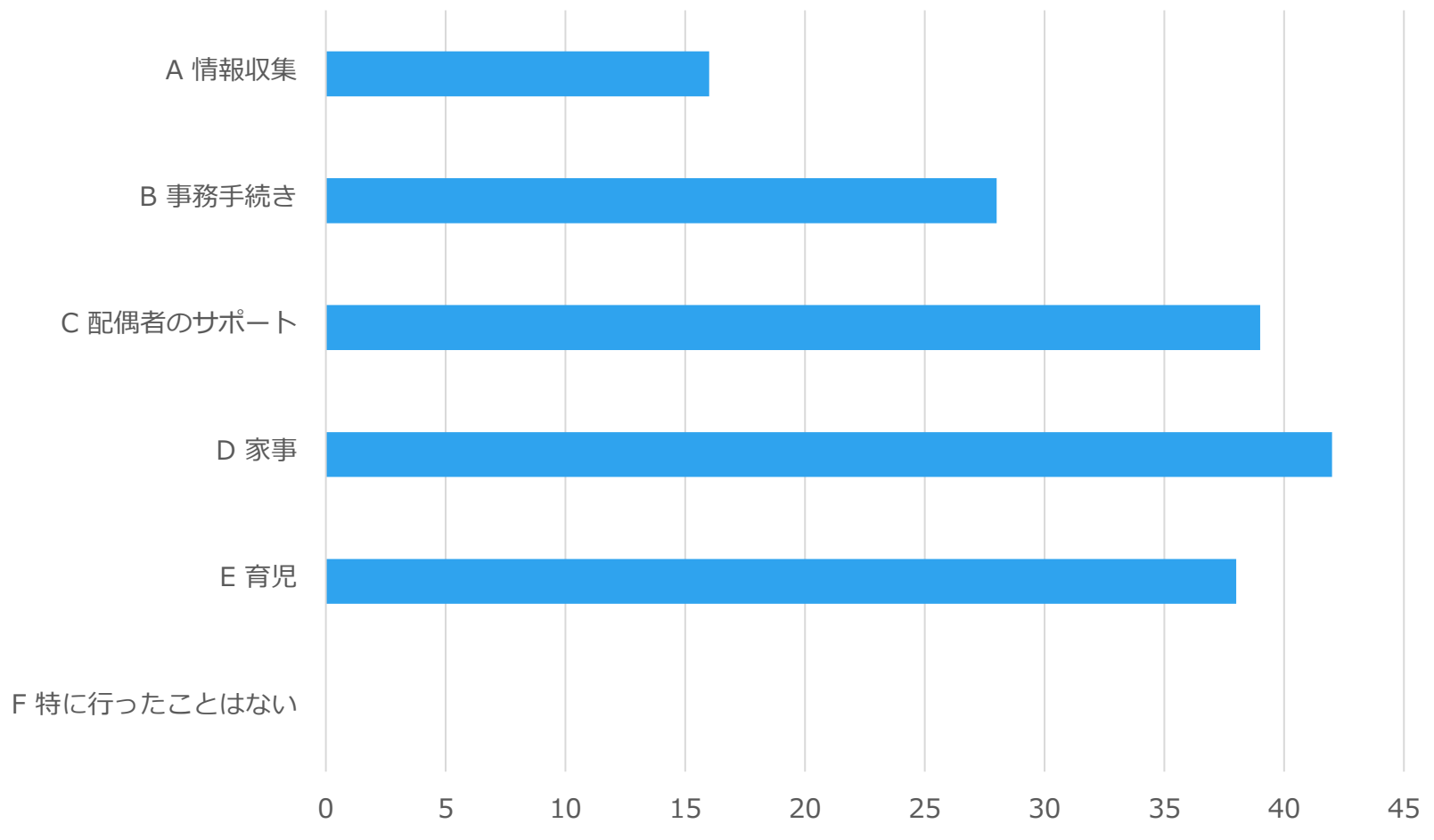
Q8. 男性育休を取得した理由を下記から 選択してください（複数選択可）。

男性育休を取得した理由（複数選択可）



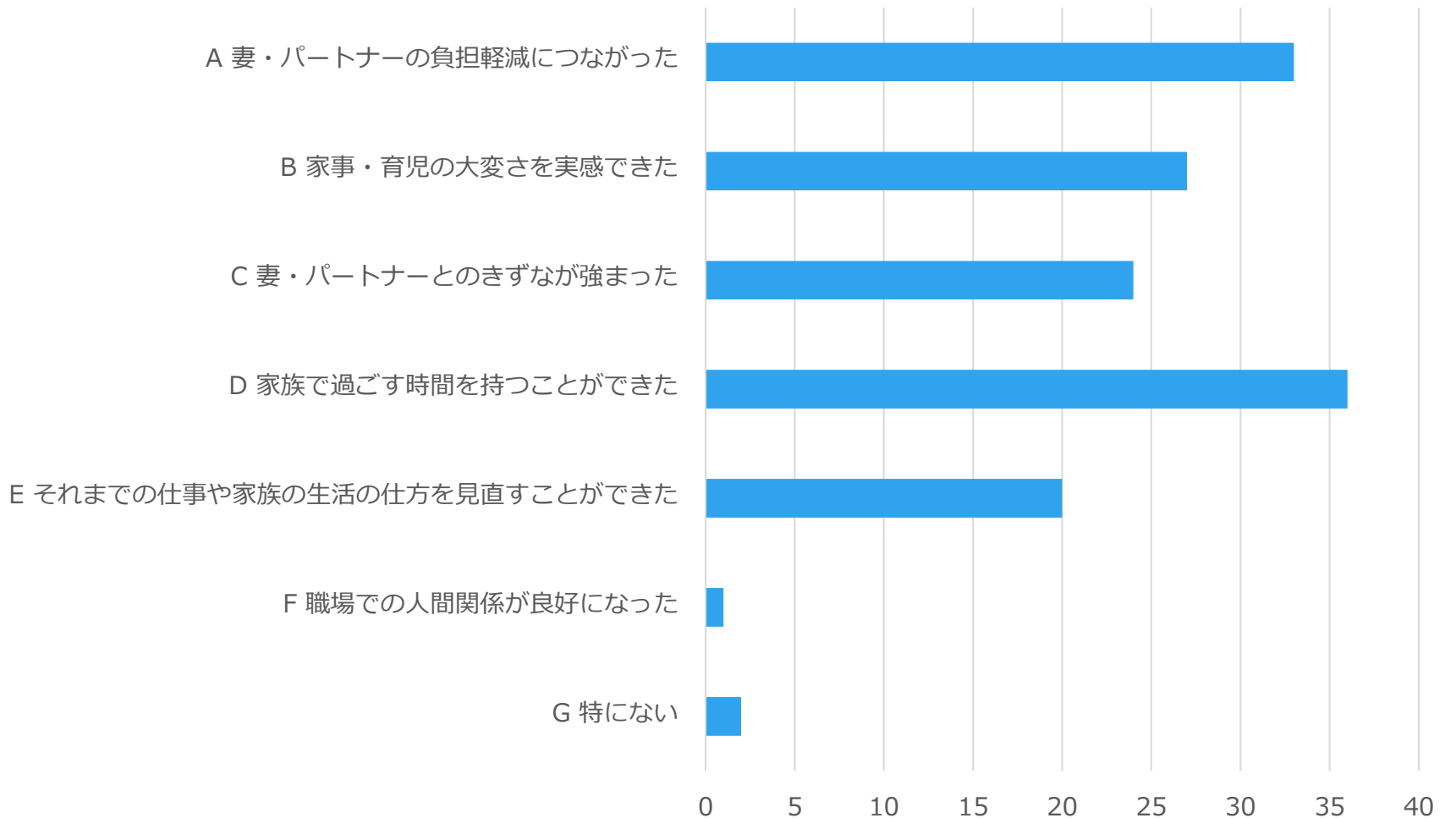
Q9. 休暇を取得して行ったことを
下記から選択してください（複数選択可）。

図9 休暇を取得して行ったこと（複数選択可）。



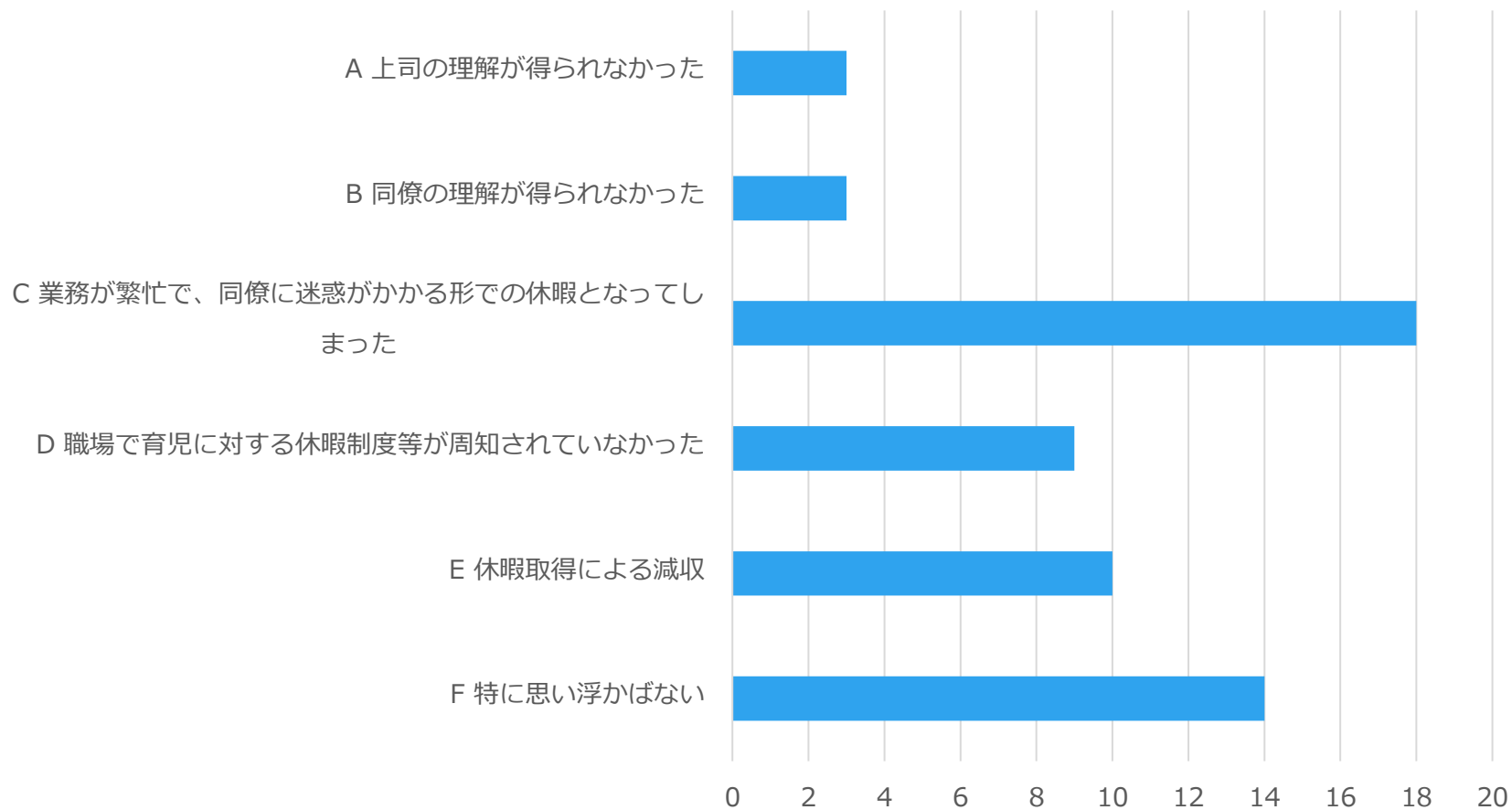
Q10. 男性育休を取得してよかったことを 下記から選択してください（複数選択可）。

図10 男性育休を取得してよかったこと（複数選択可）。



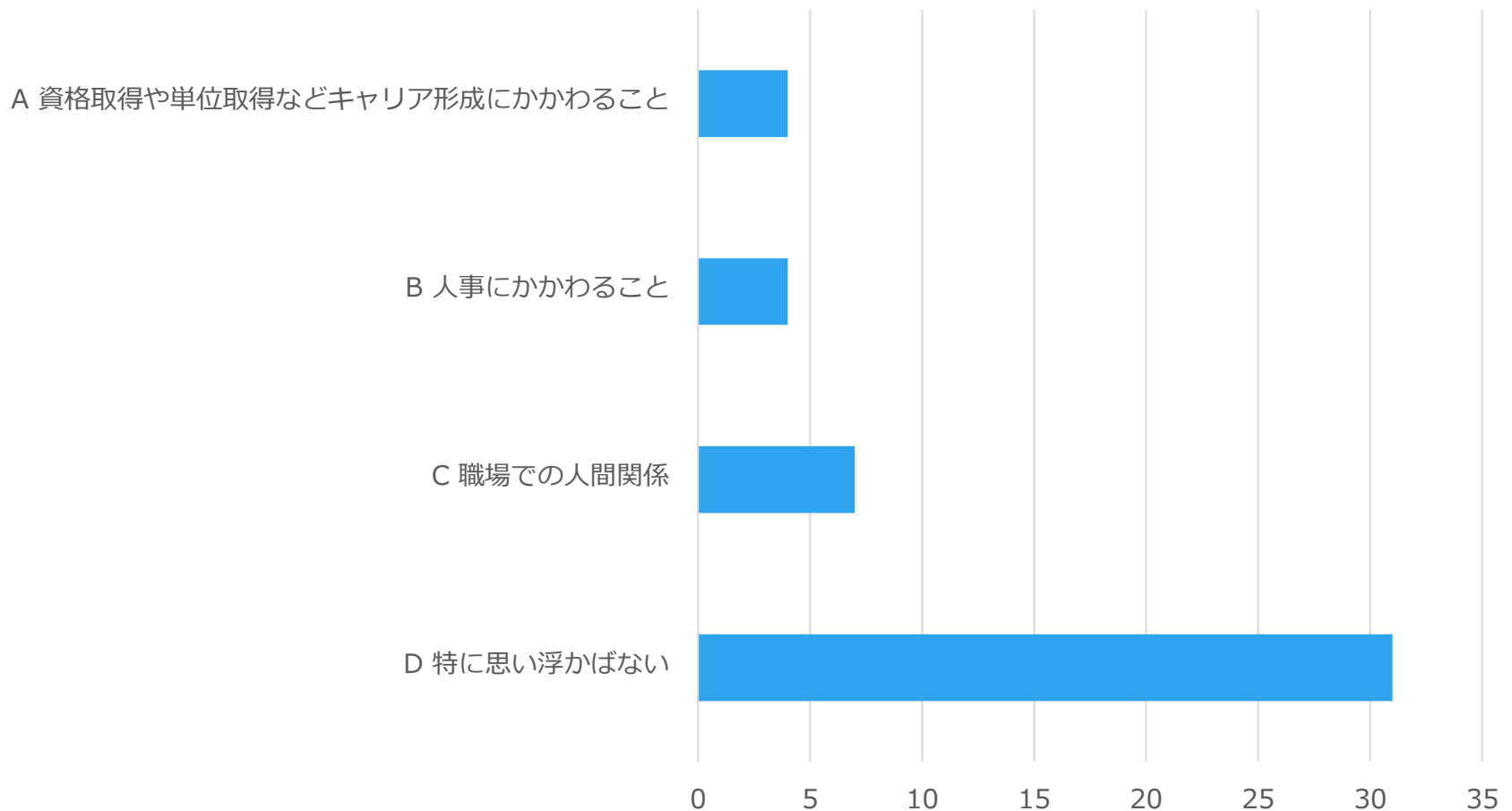
Q11. 男性育休中に困ったことを下記から 選択してください（複数選択可）。

Q11. 男性育休中に困ったこと（複数選択可）。



Q12. 男性育休終了後に困ったことを 下記から選択してください（複数選択可）。

図12 男性育休終了後に困ったこと（複数選択可）。



「男性育休体験」についてのエピソード（抜粋） 1/3

※各コメントの末尾へ（育休取得時の整形外科経験年数/現在の年代）を記載

☆素晴らしい取り組みだと思います。育休に関して委員会で議論する際に、ぜひ現役育児世代の先生（男女ともに）を複数名加えて議論していただければ幸いです。（5～10年未満/30～39歳）

☆妊娠安定期に入ったところで部長に相談。職場の理解を得られて2ヶ月取得しました。休暇取得前から身重の妻を休ませながら環境づくり、職場の申し送り、などなど準備していたら出産予定日より3週前倒しになりバタバタしながら育休に入りました。妻が産後うつになってしまったため妻のメンタルケアもとても大切で、この時期に休みをいただけて本当に良かったと思いました。育児は思うようにいかないことばかりなのでそれで寛容になれば、職場のアンガーマネジメントにも役立つかもしれません。復帰の際にも、短時間勤務から復帰と調整いただき、本当に感謝しています。（5～10年未満/30～39歳）

☆自分は、妻の出産に際して有給休暇、夏期休暇、職場の特別休暇などを組み合わせて10日間ほど休暇をとった。育休をとったことで、普段関わらない部分はわからない事が明白になったと感じている。幼稚園の準備や学校との連絡帳のやりとりなど、目に見えていない部分がたくさんあった。これから子どもが生まれてくる人達は、育休を取得するかどうか考える機会が増えてくると思う。職場でも育休取得について話すことがあるだろう。一人目か、二人目か、上の子が何歳か、どんな習い事をしているかなど、どの時期に取るか、育休と一口にいてもやることは人によって大きな差がある。先達の意見も参考にしつつ、家庭の中で自分が負担していない見えてなかった部分を知ることが、育休をとる際に心がけて欲しいことと思う。（10～15年未満/40～49歳）

☆結婚式などで、新婦の言葉に「父は仕事で家にあまりおらず」という話を耳にタコができるほど聞いてきたが、これからの時代は父が家にいることが当たり前。（3年未満/25～29歳）

「男性育休体験」についてのエピソード（抜粋） 2/3

※各コメントの末尾へ（育休取得時の整形外科経験年数/現在の年代）を記載

☆勤務先は手術件数が多く、多忙な病院でしたが、院長は快く休暇を認めて下さいました。他の医師やスタッフも嫌な顔一つせず、「頑張っておいで」と背中を押して下さいました。これが非常に有り難かったです。妻は切迫早産の診断で早期入院となってしまいました。新型コロナの関係で面会もできず、上の子供2人の世話に加え、双子の出産準備とストレスフルな生活を余儀なくされました。妻、双子ともに無事に出産を終え、退院してきた後は更に多忙な日々が待っていました。妻は産後のダメージで動けず、昼夜問わず3時間おきにミルクが必要で、身体的にも精神的にもつらかったです。出産後、約1ヶ月半で仕事復帰しました。他の先生方や病院スタッフ、担当患者さんには多大なご迷惑をおかけしましたが、祝福のお言葉とともに受け入れて下さいました。家のほうは育児ヘルパー、妻の母、ママ友の助けを借りながら、子供達も順調に成長しています。育休を取得してよかった点は、家族の絆が深まったこと、家事育児の大変さが実感できたこと、子供の成長を日々感じられたこと、職場の方々の優しさに触れられたことです。困った点は、他の先生方の業務負担が増えたこと、フォローしていた担当患者さんが減ってしまったこと、育休中の減収です。給付金は支給されますが、所得に応じて上限があり、注意が必要です。また出産前は育休対象外で、有給は全て消化してしまいました。（10～15年未満/30～39歳）

☆管理職登用後の「男性育休体験」であり、社会情勢はやや追い風であった。事前申請が重要であり、減収にはなれど、他で代替が難しい経験をした。社会が変化し、「当たり前」の前提が世代によって異なる時代となった。相談し配偶者職業復帰のタイミングで1ヶ月取得した。外科であり手技の維持が大変重要であり、長期の休業はキャリア上はマイナスの部分がある。留学同様に事前の準備と学習、また周囲への広報含め、内部調整が必要である。ハローベストなどにも似て、同性での前回取得者>現取得者>次取得者への、世代的な引き継ぎとケアが、組織としてはあったほうが良いのではないか。プライバシーに大きく関わる領域のため、周知の仕方も含め、取得者自身との相談と同意が必要であろう。（10～15年未満/40～49歳）

「男性育休体験」についてのエピソード（抜粋） 3/3

※各コメントの末尾へ（育休取得時の整形外科経験年数/現在の年代）を記載

- ☆男性育休という言葉がまだ非常に珍しかった2013年に3人目の子供が生まれた時に取得しました。整形外科常勤医3人の大学医局関連病院で自分が医長、残り2名は優秀な後期研修医。彼ら2人にすべてを任せて16日間の育休を取得しました。医局のサポートとして非常勤で週2~3回大学病院から大学院生を派遣してもらえ、なんとか実現できました。（15~20年未満/40~49歳）
- ☆第二子出産の際に育休を3ヶ月取得させていただきました。最初は男も育休は取れるのか？という職場だったのですが、『男の育休』をテーマにプレゼンなどして周囲もとても快く受け入れてもらえました。（30~39歳/5~10年未満）
- ☆4年前になりますが、当院では男性の育休は認められておらず、体制も前例もないとのこと。ですが、整形のうちで内輪に時短程度なら良いと。そのため、理解ある整形上司の方々のおかげで時短で帰り、子供の送り迎えなどができました。（10~15年未満/40~49歳）
- ☆5年前に取得したが病院の規則にはなく、院長に相談したら「有給休暇でお願いします」と言われ、看護師や女性医師は育休があるのにおかしいと思ったが、私も仕事に余裕がある年齢での出産だったので休むことができ周りの同僚や医師に感謝している。最大の課題は社会の周知と職場内環境整備だと思います。（20年以上/40~49歳）
- ☆この度、5人目の出産で有休を併せて2週間の育休を取得いたしました。小学校、幼稚園、保育園の準備、弁当作り、習い事の送り迎え、日常の家事、寝かしつけなど妻がこなしていることは思った以上にハードで、妻の日ごろの大変さが身に沁みました。時には手術をしている方が楽だなと感じることもありましたが、子供とこれほど長時間過ごしたことがなかったため、大変貴重な体験でした。（15~20年未満/40~49歳）